

TICAD 8

一般社団法人アフリカ開発協会の取り組み

TICAD VI、TICAD 7 を通じて積み重ねてきた保健分野での調査・活動を軸にして TICAD 8 で案件の具体化を試み、一定の成果を収めることができた。また、各国要人との意見交換から、他の分野での今後の活動の展開も視野に入ってきた。

〒102-0094
東京都千代田区紀尾井町4番1号
新紀尾井町ビル3階
一般社団法人アフリカ開発協会
Tel.03-3511-8911 www.afreco.jp

TICAD 8

一般社団法人アフリカ開発協会の取り組み

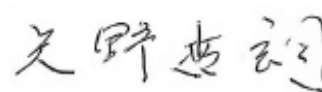
はじめに

2022年8月27日、28日にチュニジアで開催された第8回アフリカ開発会議(TICAD 8)は、異例尽くしだったと言える。COVID-19による会議出席者数の制限、参加企業数と展示の制限、サイドイベントのオンライン化、そして残念なことに我が国日本の首相の出席もかなわなかった。ケニアで開催された TICAD VI には約6,000人の参加者があったが、今回は約2,000人と言われている。とはいえ、数が少ないから成果がないというものでもない。「人」と「質」に注目した日本らしいアプローチは着実に形になってきていると実感しているし、またこの路線を踏襲していくべきだと考えている。

債務超過、環境問題、脆弱なインフラ、貧困などアフリカに多く課題がある中、パンデミック下の TICAD で認識を新たにしたのは保健医療の底上げの重要性だ。人々の健康が労働力を生み、食糧やインフラを作り、経済発展を導くのは言うまでもない。COVID-19で世界経済、政治が不全に陥る中、アフリカの国々にも自律が求められている。

アフリカ開発協会では、その一助となりうるいくつかの案件を実現し発表をすることができた。詳細は、是非、この報告書をご一読いただきたいが、同時にどの案件もまだスタートラインに立ったばかりだ。今後はこれらの案件を大きく育てていき、チュニジアをゲートウェイにアフリカ全土にその影響を広めていくことにも力を注ぎたいと考えている。

一般社団法人アフリカ開発協会



会長

TICAD 8 チュニジアでの活動

イノウエバルーン・ワークショップ



一般社団法人アフリカ開発協会では、2015年ごろからアフリカの医療の底上げになるように、多くの医療関係者や医療機器メーカーとともに、アフリカのニーズに合った実現可能な企画を組成・支援してきた。2021年初春に東レ・メディカル株式会社、またイノウエバルーンの発明者 医師 井上寛治先生(京都、PTMC 研究所 所長)から、イノウエバルーンを広くアフリカ全土に知らしめアフリカの人々、特に妊婦と胎児の命を守るために役立ちたい、ケニアやエチオピアなどで活動をしているものの、もっと早く効率的にイノウエバルーンを伝えたい、との相談があった。当協会は、イノウエバルーンの伝播は日本政府が推進するユニバーサル・ヘルス・カバレッジの考えに沿うもので、TICAD8 に何らかの形で取り上げられることが良いのではない

イノウエバルーンとは、リウマチ熱やリウマチ性心疾患によって引き起こされる僧帽弁狭窄症を治療するための経皮経静脈的僧帽弁交連切開術(PTMC)で用いるカテーテルの一種。アフリカではリウマチ性心疾患がいまだに蔓延しており、多くの若い患者特に出産適齢期の女性が心不全に苦しんでいる。そのうち約6割が僧帽弁狭窄症の患者で、PTMCなら救える可能性が高い。また、PTMCは患者の肉体的負担が少ないので、ほとんどの場合、翌日には歩いて帰宅でき妊婦も安心して治療を受けられる。イノウエバルーンは、東レ・メディカル株式会社が生産・販売している。

かと考え、外務省、駐日チュニジア大使館や在チュニジア日本国大使館など関係機関への働きかけをしてきた。その結果、JICAの支援を受けて、チュニジアにおけるイノウエバルーン第一人者のHabib Gamra先生(Prof. of Cardiology, Fattouma Bourguib University Hospital)をパートナーに、8月24日から25日にアフリカ各国の医師をチュニジア、モナステールのFattouma Bourguib

University Hospital に招聘し手技研修を行うとともに、井上先生と Gamra 先生による講演会を開催した。

ワークショップの後、帰国してすぐにイノウエバルーンとその技術を活用できると思われる医師をアフリカの心臓病学協会から18カ国21人推薦していただいたが、紛争やビザ発給の状況、またパスポートの盗難事件な



どがあったため、最終的には12カ国(モロッコ、セネガル、マリ、ブルキナファソ、リビア、ウガンダ、ケニア、スーダン、ニジェール、タンザニア、モーリタニア、コートジボワール)14人の医師が参加した。井上先生と Gamra 先生の手技(1日目に4症例、2日目に3症例)を見学するだけでなく、イノウエバルーンの仕組みを学び、心臓の模型を使いながら実際にイノウエバルーンの使い方を体験した。

25日の17:00からは、モナステールの L'hotel Royal Thalassa 内で、軍医でもある Ali Marabet 保健大臣閣下ご臨席のもと、イノウエバルーン開発の歴史を井上先生から、そして PTMC の難しい症例について Gamra 先生から講演があった。聴衆は招聘されたアフリカの医師のほか



に、チュニジアの心臓病専門医師が中心だった。ディスカッションでは、イノウエバルーンを用いればいかに多くのアフリカの人が救われるかを強調する医師が多かったのと同時に、イノウエバルーンの値段がアフリカの人にとって高額であることを訴える医師も少なくなかった。また、イノウエバルーンを使うトレーニングの場がもっと必要だという声が上がった。

尚、手技研修、講演の様子は、ZOOM で世界に配信され、アフリカのみならず欧州からも視聴があった。

加えて、8月27日にチュニジア保健省主催で開催された『Investing in health in AFRICA, perspectives and challenges』（チュニス、The City of Culture）に Gamra 先生が招かれ登壇し、当該ワークショップについて発表、またアフリカ大陸におけるイノベーションの重要性と必要性を訴えた。



* Gamra 先生は、TICAD 8 後、日本と諸外国の相互理解を促進した功績で、林外務大臣から令和4年度外務大臣賞を受賞した。

記者発表

一般社団法人アフリカ開発協会は、アフリカだけでなく世界が COVID-19 というパンデミックに苦しむ中、こんな時だからこそ医療の底上げをと考え、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成にむけて、他のステークホルダーと共に確実にアフリカの



人々のためになり、また形になる医療・保健案件を組成してきた。中でもチュニジアは、アフリカでビジネスや教育を広く展開していきたいと考える日本企業や組織にとって、言語面、経済面などからも理想的なパートナーといえる。日本のノウハウや技術をチュニジアの人々と分かち合い、一緒にアフリカ、特にサブサハラ・アフリカの国々の助けになるような活動をしていこうと以下4つの案件を生み出し、8月26日にチュニスのシェラトンホテルで発表した。冒頭には Ali Marabet 保健大臣閣下から歓迎と両国の医療分野における協力促進への激励の言葉を賜った。

1. イノウエバルーンの紹介と手技教育

発表内容は、前述イノウエバルーン・ワークショップに準ずる。



2. 初の Made in チュニジア COVID-19 検査キット製造・販売

アフリカ開発協会と日本チュニジア商工会議所の働きかけにより、ジーキューブ（神戸、半導体エンジニアリング会社）と UNIMED（チュニジア・スース、製薬会社）が COVID-19 の抗原・抗体検査キットの製造・販売分野で提携することになり、6月14日には MOU を結んだ。COVID-19 だけでなく、アフリカのほかの風土病の検査キットや医療機器を開発することも合意された。



TICAD8 にあたっては、両社の合弁会社 NIPPOMED が UNIMED 敷地内に設立されること が発表された。今後、日本から NIPPOMED への技術移転がなされるだけでなく、NIPPONMED を基地としてアフリカ諸国や中東諸国へ日本とチュニジアが生産する医薬品 や医療機器を広く普及させていくことを目標にしている。

尚、TICAD8 を機に、ジーキューブでは、アーティチョークを活用した機能性食品の開発と製 造についてチュニジア製薬工業会社(SIPHAT)と MOU を結ぶことになり、JV も検討してい る。また El Manar 大学の感染症研究所とは、名古屋大学も交えて、各感染症ならびに疾患 などに関する対外診断用医薬品の開発にむけた共同研究をすすめようという話が浮上して いる。



3. チュニジアをハブとしたアフリカにおけるメディカル・エンジニアの育成

2019年にチュニジアでのメディカル・エンジニア育成にむけて、アフリカ開発協会はEl Manar大学付属医療技術高等学院(ISTMT、チュニジア・チュニス)とMOUを結び、学部開設の協力を行ってきた。高度な医療を目指すチュニジアにとって、医療機器を維持・管理し、正しく扱える人材を育成することは、不可欠なステップであると同時に医療面でサブサハラ・アフリカをけん引していくためにも必要だ。

TICAD 8では一般財団法人臨床工学国際推進財団(東京)が清水信介在チュニジア日本国大使閣下ご臨席のもと、ISTMTとMOUを結んで技術者育成のために講師を派遣し、現地教員への指導を協力していくことを約束した。尚、ISTMTは、チュニジア国内の国立大学でバイオメディカルエンジニアリング(BME)コースが設置された初めてのケースである。



また、TICAD 8を機に、臨床工学国際推進財団所属の檜村友隆先生、辻義弘先生が教鞭をとる森ノ宮医療大学はNATURODETOX(チュニジア)から共同研究の依頼を受け、同社の製品の効果検証を行っていくことになった。



4. 大学交流としての人材育成と新規産業創出にむけたトイレタリー製品開発

東亜大学(山口)とモナステール大学は、学生交流・オンラインの共同授業をとおして、アフリカの衛生環境の改善、子どもたちの手洗い習慣獲得、難民キャンプへの援助、現地雇用の創出、アントレプレナーシップ教育を目的に、チュニジア人材育成と新規産業創出に向けたトイレタリー製品の開発に取り組んでいる。

第1弾商品として世界有数の産出量をほこるチュニジア産オリーブオイルを主原料に、貴重なウチワサボテンオイル、チュニジア産の天然精油を配合した、肌への刺激がマイルドで子どもから大人まで使用できる石鹸を開発している。国際的なパーム油問題(熱帯林の伐採、野生動物の減少)にも目を向け、パーム油に変わる原料としてチュニジア産のデーツオイルの抽出配合方法も検討している。

TICAD8を機に、チュニジアで石鹸を生産している企業と接点を持ち、今後石鹸の生産に本格的に取り組むことになっている。



Japanese Desk in Africa との MOU

アフリカ開発協会は、TICAD 8 において Japanese Desk in Africa (JDA) と MOU を締結した。

JDA は、日本企業のアフリカ事業を支援するために、2022 年に設立された。JDA は、サブサハラ・アフリカに広くネットワークを有しビジネスの経験も豊かな MK デベロップメント、民間にも公的機関にも監査、アドバイザー、会計、税務サービスを提供している BDO チュニジア、そして日本企業や個人が出張の際にロジスティクスや通訳・翻訳、イベント支援などを行っている TRAVEL SUN の3社が手を組み、日本の文化や習慣に対する深い理解と評価もちなが



ら、日本企業のニーズと期待に応え、日本企業のチュニジアそしてアフリカ進出を支援する組織だ。この度、当協会がチュニジアで開催した記者発表も JDA の協力により実現した。

JDA の代表者の一人 Hedi Ben Abbes 氏は Tunisian-Japanese Chamber of

Commerce and Industry (TJCCI) の会頭でもあり、2021年の暮れから TJCCI の会合のたびに当協会へ発表の機会を与えてくださり、結果としてジーキューブと UNIMED の提携につながった。

また、チュニジアでの記者発表には間に合わなかったが、同じく TJCCI の会合で当協会が紹介したクニエ(東京)の AI 診断システム(NTT データ・グループとインドの Deeptek が開発)に関し、Abderrahmane Mami Ariana Hospital(チュニス)で実証実験を行うことが決定し、10月に MOU を結ぶことになっている。TICAD8に際してクニエは、JDA の紹介でチュニジアでの民間病院設立支援要請を受け、日本式医療の展開に向けた拠点となる可能性を秘めて

いることから情報を精査し進めていく方針である。加えて、砂漠を開発して農畜産業の振興や再生可能エネルギーの導入を図っているチュニジアの企業との協働を模索することになった。

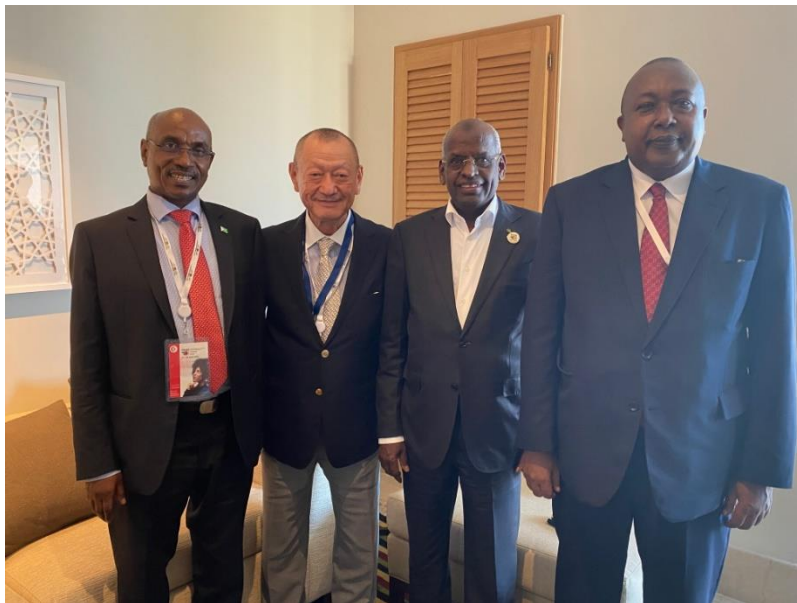
今後は JDA と協力をしながら、日本の技術をチュニジアへ、またチュニジアをとおしてサブサハラ・アフリカへ紹介することに取り組んでいく予定。

*JDA の URL はこちら <https://japanesedeskinafrica.tn>

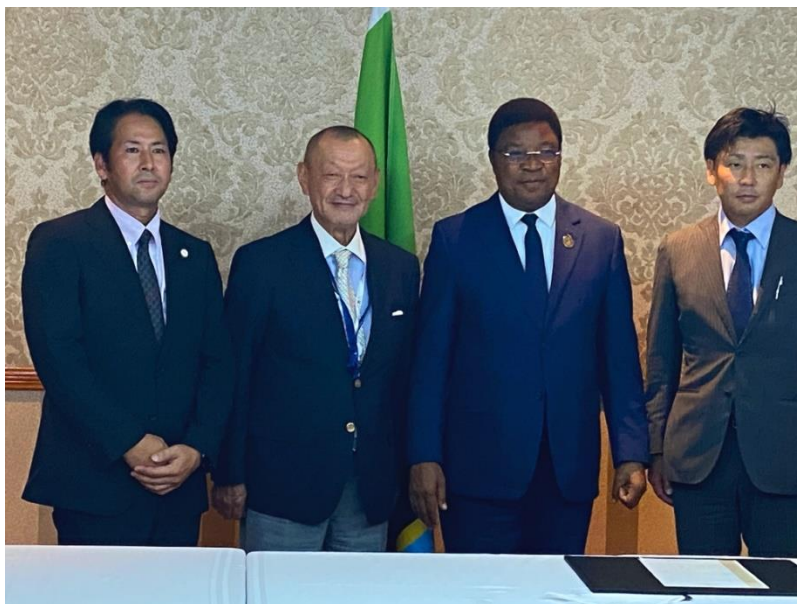


要人との意見交換

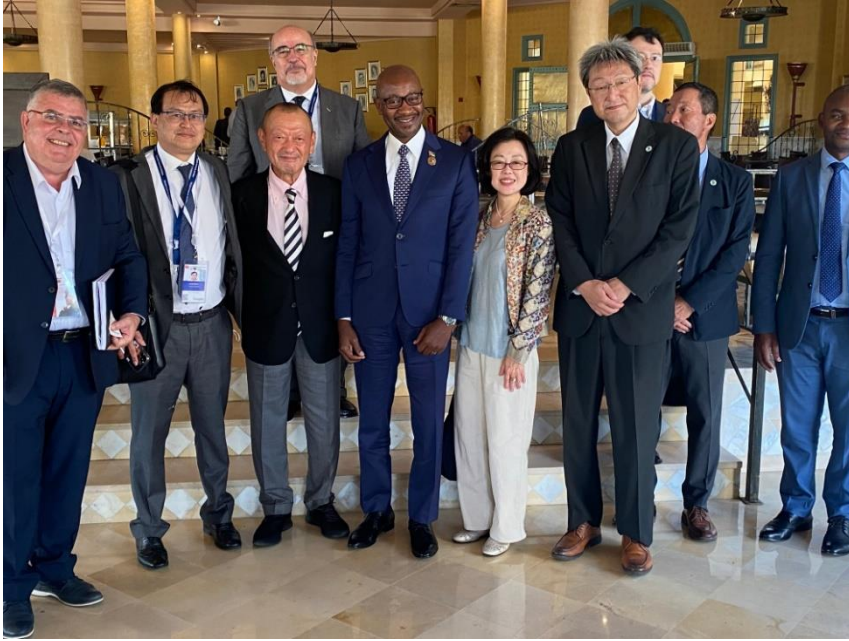
COVID-19の影響から、TICAD8の開催にはさまざまな規制があり、これまでのTICADのように容易に要人と意見交換を行うことが叶わなかったが、逆にアポイントメントがとれた要人はゆっくり、じっくり色々な案件について話し合うことができた。また、チュニジアの首相主催のディナー、大統領主催のディナーで、各国要人と会うこともできた。



ジブチ首相一行と



タンザニア首相と



モザンビーク要人一行と



ガボン要人一行と

TICAD 8 公式サイドイベント

「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けたアフリカの保健分野における協力の在り方について」

主催:財務省、アフリカ開発銀行、一般社団法人アフリカ開発協会 後援:国際協力機構

8月25日、日本時間の21時からオンラインで当該セミナーが開催された。このセミナーは、アフリカ開発協会が2021年に財務省の委託で調査した『アフリカの保健分野に対する日本の協力の在り方に関する調査業務』報告書に基づくものである。

財務省副財務官の緒方健太郎氏のごあいさつの後、当協会参与福永哲也から上述の調査内容について概要を発表。続いて、一緒に調査を行ったクニエのディレクター平林潤氏と認定 NPO ロシナンテス代表の川原尚行医師が、日本が持つ技術や製品を紹介した。またアフリカの政府機関以外のプレイヤーがどのようにアフリカの UHC 達成に貢献できるかを、南アフリカ開発銀行の Mr Mohan Vivekanandan 氏が語り、アフリカ開発銀行アジア代表事務所長の花尻卓氏の言葉で閉会になった。約180人の視聴を得た。

「創薬やアフリカ伝統薬活用による健康的かつ、より良い生活を求めて」

主催:熊本大学、特定 NPO ロシナンテス

熊本大学では、これまでにアフリカの教育機関などと連携しながら、アフリカの伝統薬の安心安全な利活用によるアフリカの公衆衛生の向上を図り、健康的でよりよい生活がかなえられるよう様々な取り組みをしてきた。アフリカ開発協会ではこの取り組みを評価し、「クマモト提言2019」に引き続き、現状の課題解決に向けた新たなアクションプラン「クマモト提言2022」の発信を応援すべく、9月20日、日本時間16時からの当該セミナーでオープニングに登壇した。

TICAD 8 アフリカ開発協会関係案件広報記事

2022年8月26日 産経新聞

アフリカ市場 対中巻き返し

社会課題解決を糸口に官民連携

TICAD、あす開幕

日本政府が主導するアフリカ開発会議（TICAD）が27、28日にチュニジアで開かれ、日本企業の進出促進などが主な議題となる。資源が豊富なアフリカ市場への投資では中国などが先行しているが、現地では過度な中国依存への懸念も出ており、日本は官民が連携してアフリカ開拓を強化し、巻き返しを図る。

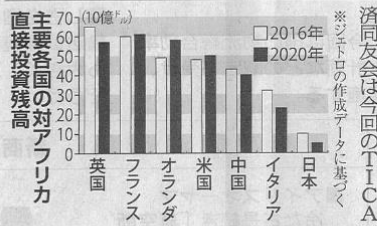
（高久清史、那須慎一）＝2面に関連記事

「ますます日本とアフリカ」大を見据え、金融とITと力の関係は対等のビジネス 融合させた「フィンテック」の関係になる。日本貿易振興機構（JETRO）の佐々木伸彦理事長は22日の記者会見でこう述べ、アフリカとの関わり方で「援助からビジネス」のシフトが加速するとの認識を示した。アフリカは2050年に世界人口の4分の1を占めると予測される巨大市場で、経済的な潜在力から「最後のフロンティア」とも呼ばれる。今後の市場は約900拠点を、シエトロに

「ただ、日本の存在感は高くないとはいえない。日本総合研究所の調査ではアフリカ進出企業の拠点数は中国の約5千拠点に比べ、日本は約900拠点。シエトロに



ナイジェリアの最大都市ラゴスの売店で販売される味の素の粉末調味料「テリヤク」。多くの日本企業がアフリカ市場の成長性に注目している。＝8日（味の素提供）



よると、対アフリカ直接投資残高でも日本は中国などに引き離されている。巻き返す上で糸口となりそうなのが社会課題解決につながる「ビジネス分野への参入だ。現地との橋渡しを取り組むアフリカ開発協会の矢野哲朗会長は「医療分野などで日本の技術を生かしたい」という期待は非常に強い」と指摘する。

具体的な動きもある。経済同友会は今回のTICAD8開催に先駆け、アフリカに特化して社会課題解決の投資などを行うファンドの新設を決めた。同友会アフリカプロジェクトチームの岩井睦雄委員長（日本たばこ産業会長）は「日本ならではのやり方で成長（恩恵）を日本に取り込む」と話す。ファンドの資金運用規模は24年春に100億、150億円を目指す。

一方、海外ビジネスのリスクに対応する保険事業を行う政府全額出資の日本貿易保険は、同業のアフリカ貿易保険機構（ATII）に出資する方針を表明。TICAD8に合わせて協力覚書

を交わす予定。ATIIとの関係強化を通じて現地の情報を入手し、日本企業を後押しする。

日本総合研究所の石川智久上席主任研究員は、アフリカでは中国が債務を負わせて支配を強める「債務のわな」を懸念し、過度な中国依存の修正を探る機運があると指摘。「TICADを活用しながらオールジャパンでアフリカ勢とワインの形の構築し、アフリカの中国依存を減らせば国際社会での日本の発言力も高まる」と期待する。

官民で「最後のフロンティア」開拓対中で巻き返し

2022/8/25 18:51 高久清史 那須慎一

経済金融・財政産業・ビジネス国際中東・アフリカ政治政策

日本政府が主導するアフリカ開発会議(TICAD)が27、28日にチュニジアで開かれ、日本企業の進出促進などが主な議題となる。資源が豊富なアフリカ市場への投資では中国などが先行しているが、現地では過度な中国依存への懸念も出ており、日本は官民が連携してアフリカ開拓を強化し、巻き返しを図る。

「ますます日本とアフリカの関係は対等のビジネスの関係になる」。日本貿易振興機構(ジェトロ)の佐々木伸彦理事長は22日の記者会見でこう述べ、アフリカとの関わり方で「援助からビジネス」のシフトが加速するとの認識を示した。

アフリカは2050年に世界人口の4分の1を占めると予測される巨大市場で、経済的な潜在力から「最後のフロンティア」とも呼ばれる。今後の市場拡大を見据え、金融とITを融合させた「フィンテック」事業などで新興企業が増加。国際通貨基金(IMF)によるとサハラ砂漠以南のサブサハラアフリカ地域の実質成長率は22年が3・8%、23年が4・0%と見込まれている。

ただ、日本の存在感は高いとはいえない。日本総合研究所の調査ではアフリカ進出企業の拠点数は中国の約5千拠点に比べ、日本は約900拠点。ジェトロによると、対アフリカ直接投資残高でも日本は中国などに引き離されている。

巻き返す上で糸口となりそうなのが社会課題解決につながるビジネス分野への参入だ。現地との橋渡しに取り組むアフリカ開発協会の矢野哲朗会長は「医療分野などで日本の技術を生かしたいという期待は非常に強い」と指摘する。

具体的な動きもある。経済同友会は今回のTICAD開催に先駆け、アフリカに特化して社会課題解決の投資などを行うファンドの新設を決めた。同友会アフリカプロジェクトチームの岩井睦雄委員長(日本たばこ産業会長)は「日本ならではのやり方で成長(の恩恵)を日本に取り込む」と話す。ファンドの資金運用規模は24年春に100億～150億円を目指す。

一方、海外ビジネスのリスクに対応する保険事業を行う政府全額出資の日本貿易保険は、同業のアフリカ貿易保険機構(ATI)に出資する方針を表明。TICADに合わせて協力覚書を交わす予定。ATIとの関係強化を通じて現地の情報を入手し、日本企業を後押しする。

日本総合研究所の石川智久上席主任研究員は、アフリカでは中国が債務を負わせて支配を強める「債務のわな」を懸念し、過度な中国依存の修正を探る機運があると指摘。「TICADを活用しながらオールジャパンでアフリカ勢とウィンウィンの形を構築し、アフリカの中国依存を減らせば国際社会での日本の発言力も高まる」と期待する。(高久清史、那須慎一)

2022年8月26日 科学新聞

東亜大とチュニジアのモナスティール大が連携 人材育成と新規産業創出に 向けたトイレタリー製品開発

東亜大学(榎田宏治学長)は、(一社)アフリカ開発協会(AFRECO・矢野哲朗会長)の協力でモナスティール大学(チュニジア共和国)と連携して同国の人材育成と新規産業創出を

目的に、同国原産材料を用いて衛生環境を改善する現地で製造可能なトイレタリー製品を開発したと8月22日発表した。26日には同国で開催される第8回アフリカ開発会議(TICAD8)に合わせ現地で製品を発表する記者会見を行う。

両大学は東亜大学の平松隆平准教授によるモナスティール大学とのオンライン合同授業を契機に、昨年6月に大学間学術交流協定を締結。平松准教授とモナスティール大学のMotahareh ACHANKA助教および両大学の学生で、アフリカにおける手洗いや手指の消毒に関する製品の開発を英語による合同のオンライン授業で進めてきた。

これら開発・製造を通じて、同国でヘルスケアサービスを受ける上で物理的にそれがアクセスできない状



開発に携わった東亜大学トータルビューティー学科の学生と石嶋

定するとい
う。

平松准教授は「これまでコロナウィルス感染症の影響による海外渡航の難しさもあり、オンラインによる合同授業を行っ

てきました。今後の感染症対策ですが、交換留学の枠組みなどを利用して、学生たちが相互に行き来して、このプロジェクトをより推進していけたらと考えております」と話した。

記者会見で発表される試作品は、これまで開発してきた形状とは異なり1回で使い切れるタイプで、衛生を維持させる狙いがあるという。

石嶋の主原料には同国が世界有数の生産量を誇るオリブオイルを用い、貴重な天然精油などを配合し、子どもの利用を想定して肌への刺激が低く口に入れても安全で、下水から海や川に流出しても短期間で分解されるものにしたという。国際的なパーム油問題にも目を向け、同国産のデーツオイルの抽出配合方法も検討している。

今後、開発した製品は日本だけでなく同国内で学生らの起業により販売し、現地の新規産業創出につなげていく。国際的な原材料の高騰に伴うトイレタリー製品の価格上昇傾向のなかで、主原料を生産する同国とフェアトレード体制の実現を目指す。販売で得られた利益をもとに、アフリカの難民キャンプで製品の無料配布を行うという。

2022年8月26日 産経新聞

チュニジアで交流強化

日本とアフリカ諸国の経済交流強化を推進するアフリカ開発協会は26日、アフリカ開発会議（TICAD）が開催されるチュニジアで、医療・保健分野での人材育成や、新型コロナウイルスの抗原・抗体検査キットの現地製造・販売などについて発表する。

同協会の仲介、支援のもとで日本、チュニジア間で取り組みが進んだ。

人材育成では医療機器の保守点検などを担う技術者を育成するコースが現地の大学付属の高等学院で昨年開講し、日本の臨床工学会際推進財団が協力する。

医療・保健系 人材育成 コロナ検査キット製造

また、アフリカで深刻なリウマチ性心疾患の治療に有効なバルーンカテーテル「イノウエ・バルーン」の正しい使い方の普及に向け、発明した井上寛治医師がアフリカ諸国の医師に手技研修。東亜大学は現地の大学と連携してチュニジア産原材料を使ったせっけん製造、販売を通じた人材育成や雇用創出を目指す。

検査キット製造・販売では、医療関連事業などを展開する「ジー・キューブ」（神戸市）が6月に現地の製薬会社と合弁会社設立で合意しており、製造技術を提供していく。

開発協会、取り組み発表へ

2022年10月6日 産経新聞

一石二鳥、強大市場・アフリカ進出活発 当局の支援で技術磨き 日本に「輸入」も

2022/10/6 13:41

産業・ビジネス 高久 清史

アフリカへの日本企業の進出が活発化している。医療分野などの課題解決を急ぐ現地当局の支援を追い風にスピード感のある事業展開で、人口約13億人を擁するとされる巨大市場の開拓を目指す動きが生まれている。先進国に比べ緩やかな規制の下でドローンなどの技術開発を加速させることも可能で、現地で磨かれた事業モデルが日本に「輸入」されるケースも出てきた。

医療関連事業などを展開するジー・キューブ(神戸市中央区)は今年8月にチュニジアの製薬会社と合弁会社を現地で設立した。新型コロナウイルスの抗原・抗体検査キットの現地製造・販売を行う計画で製造装置を運び入れており、今月から試作を経て本格的な製造に入る。

現地のニーズが高い妊娠用や、風土病用などの検査キットの製造も行う方針で、他のアフリカ諸国にも販路を拡大して巨大市場を開拓する戦略を描く。ジー・キューブの西村賢治社長は「社会課題を解決するために行政や産業界が支援してくれ、事業に関する承認などの手続きのスピードが早かった」と振り返る。

スタートアップ(新興企業)のソラ・テクノロジー(名古屋市西区)は今年春、シエラレオネでドローンと人工知能(AI)を活用し、マラリア媒介蚊の発生源となる水たまりを探し出す事業に乗り出した。蚊の発生リスクのある水たまりを絞り込むことで殺虫剤使用のコスト、人手を抑える効果が期待でき、現地の保健当局や大学の協力を得ている。

同社の金子洋介最高経営責任者(CEO)は「規制が緩やかなのでドローンをどんどん飛ばしてデータを蓄積できる。技術を磨き、日本の航空技術・産業力の向上に貢献したい」と話す。

日本総合研究所の石川智久上席主任研究員は「先進国では実施できない実証実験や先行研究をアフリカで行うことで新たなビジネス、技術が生まれ、先進国へ「輸入」する動きが進むだろう」と指摘する。

既に実例があり、アフリカでドローンによる輸血用血液製剤の輸送を行う米スタートアップのジップラインに出資する豊田通商は4月、長崎県の五島列島でジップラインのドローンによる医療用医薬品の輸送事業を開始した。子会社の「そらいいな」が運営し、船に頼っていた輸送手段にドローンが加わることで緊急時などに薬が届きやすくなっている。

豊田通商はさらに令和元年にアフリカで事業を行うスタートアップへの出資に特化した投資会社を立ち上げており、担当者は「アフリカへの出資を通じて日本の課題解決につながる事業、サービスが誕生する可能性は十分ある」と意気込む。(高久清史)

🇯🇵 رئيس الاتحاد يستقبل رئيس المنظمة اليابانية للتنمية في إفريقيا



استقبل السيد سمير ماجول رئيس الاتحاد التونسي للصناعة والتجارة والصناعات التقليدية اليوم الأربعاء 24 أوت 2022 بمقر الاتحاد ، السيد Tetsuro YANO رئيس المنظمة اليابانية للتنمية في إفريقيا (AFRECO) ، بحضور عدد من أعضاء المكتب التنفيذي والمسؤولين بالاتحاد .

وقدم رئيس الاتحاد لمحة عن الاقتصاد التونسي والمزايا التفاضلية لتونس بالنسبة للمستثمرين الأجانب وخاصة من حيث الموقع الجغرافي وكفاءة الموارد البشرية في القطاعات الواعدة، مستعرضا القطاعات التي يمكن التركيز عليها مثل الطاقات المتجددة والصحة والدواء والرقمنة ومكونات السيارات والصناعات الغذائية والصناعات الذكية ومشددا على ضرورة حسن استثمار موعد تيكاد 8 الذي تحتضنه بلادنا بعد أيام قليلة لمزيد التقريب بين ممثلي القطاع الخاص في البلدين وفي إطار عمليات متعددة الأطراف تونسية يابانية افريقية . كما أكد رئيس الاتحاد حاجة إفريقيا اليوم للمساندة والدعم لتجاوز تداعيات جائحة كوفيد والحرب الروسية الأوكرانية خاصة فيما يتعلق بالأمن الغذائي والدواء. ومؤكدا اهتمامها بتونس وبما توفره من ميزات تفاضلية.

وأكد الضيف الياباني اهتمام الجمعية بتونس وبما توفره من ميزات تفاضلية، مفيدا أن هناك عدد من المشاريع التونسية التي يقع تدارسها في مجالات مختلفة.

كما استعرض جهود هذه الجمعية في المجال التنموي في افريقيا باعتبارها تعمل على ربط الصلة بين المستثمرين اليابانيين والأفارقة مبينا أن تيكاد 8 يمثل فرصة هامة لتطوير التعاون التونسي الياباني والياباني الإفريقي وأن الجمعية تتطلع لتحقيق هذا المؤتمر نتائج إيجابية.

#uticatunisie

#AFRECO

#TICAD8



👍❤️😄 67

いいね！

コメント

コメント3件 シェア14件

シェアする

TICAD8: Tunisia, Japan sign agreements to implement of 4 new health projects (AFRECO president)

26/08/2022 19:45, TUNIS/Tunisia



(TAP) - President of the Association of the African Economy and Development (AFRECO) Tetsuro Yano announced Friday in Tunis the signing of a number of agreements between Tunisia and Japan to implement 4 health projects.

At a conference on "the development of projects in the medical and health sector in Africa" held on the sidelines of the Tokyo International Conference on African Development, TICAD8, Yano added that these projects concern the transfer of modern Japanese technology in the medical and health sector in Tunisia.

Minister of Health Ali Mrabet told reporters the first project is part of a partnership agreement between the Tunisian company Unimed and the Japanese company G Gube. It consists of the transfer of Japanese technology for the manufacture of COVID-19 test kits in Tunisia and the export of these tests to African countries.

The second project concerns the construction in Tunisia of a training centre for Tunisian and African medics and paramedics in the use of technologies adopted by a Japanese company for the development of heart disease treatment.

The third project financed by Japan, consists in setting up a laboratory service grouping all medical analysis specialties at the Charles Nicolle Hospital in Tunis.

The fourth project involves mobilising a group of Japanese experts in the field of health for the training of medical executives in the handling of several new health technologies.

[More](#)

Newsletter Signup

To receive our newsletter, register

Register

Contact Us

tel: 71889000
fax: 71883500, 71888999



TAP news agency

8月27日 4:53 · 🌐

#Tunisia & #Japan signed agreements to implement 4 new health projects, incl. one on the transfer of #Japanese technology for the manufacture of #COVID19 test kits in Tunisia and their export to #African countries, #AFRECO president said Friday in #Tunis. bit.ly/3TolpCP





PRESS BOOK

Wednesday 7 september 22

Réalités : AFRECO propose 4 projets pour TICAD 8.....	1
Kapitalis : Tunisie-Japon : GCUBE & Unimed signent un contrat pour la création d'une entreprise de recherche et de développement médical.....	2
L'Économiste Maghrébin : Création d'une entreprise médicale NIPPOMED	3
Tunisie Numérique : Le Japon concrétise des projets en Tunisie dans l'industrie pharmaceutique et cosmétique.....	4
Webmanagercenter : Signature de 4 accords entre la Tunisie et le Japon dans le secteur de la santé.....	5
Africanmanager : Signature de 3 accords dans le domaine de la santé avec des investisseurs japonais.....	6
Espacemanager : Présentation du contrat de partenariat entre UNIMED et la société japonaise GCUBE.....	7
LeTemps : Coopération tuniso-japonaise fond de TICAD : belles perspectives pour l'industrie pharmaceutique.....	8
Ilboursa : UNIMED : Signature d'un contrat avec une Sté Japonaise pour la création dans l'industrie pharmaceutique et cosmétique.....	9
Mosaïque fM : اليابان تختار " أونيماد " المخبر الصيدلاني الإفريقي الوحيد للتصنيع	10
Fedsante : اليابانية تعلنان تركيز مصنع GCUBE التونسية و Unimed شركة تونسي ياباني لصناعة اختبارات الامراض الفيروسية والجرثومية	11
Tustex : Un accord de partenariat technique conclus avec le japonais GCUBE.....	12
Mosaïque Fm : بن عباس: AFRECO تدعم جعل تونس منصّة استثمار ياباني بشمال إفريقيا	13
Radio.tn : Ben Abbas : l'AFRECO soutient faire de la Tunisie une plateforme pour les investissements japonais en Afrique du Nord.....	14
Video : Récap Conférence de Presse	

Réalités : AFRECO propose 4 projets pour TICAD 8



L'Association pour l'économie et le développement de l'Afrique (AFRECO / annoncera lors d'une conférence de presse vendredi 26 août à l'hôtel Shératon à Tunis, quatre projets pour la 8^{ème} Conférence internationale de Tokyo sur le développement de l'Afrique (TICAD 8) dans le domaine médical et de la santé à l'occasion de la TICAD8. Ces quatre projets sont :

1. Introduction et transfert de technologie du BALLOON INOUE, un cathéter inventé et développé au Japon pour le traitement des maladies cardiaques valvulaires.
 2. Production et vente du premier kit de test COVID-19 made in Tunisia.
 3. Formation d'ingénieurs médicaux en Afrique avec la Tunisie comme pôle.
 4. Projet conjoint entre les universités japonaises et tunisiennes sur le développement de produits de toilette et leur commercialisation.
- AFRECO et le Japan Desk en Afrique signeront le MOU pour une coopération future.

Les professionnels médicaux japonais travaillant en Afrique et les ambassades des pays africains à Tokyo ont consulté AFRECO sur diverses questions dans le domaine de la médecine et de la santé. Tous les six mois entre la TICAD VI et la TICAD7, AFRECO a organisé des réunions avec eux et a recueilli le plus grand nombre de besoins possible. Nous sommes fiers d'avoir largement contribué à l'élaboration de « *l'Initiative pour la Santé et le Bien-être en Afrique* » annoncée lors de TICAD 7. Pendant la pandémie du COVID-19, nous avons travaillé avec d'autres parties prenantes pour formuler des projets médicaux et de santé qui bénéficieront sûrement aux populations africaines et qui prendront forme pour atteindre la couverture sanitaire universelle. La Tunisie est un partenaire idéal pour les entreprises et organisations japonaises qui souhaitent développer leurs activités commerciales et éducatives en Afrique. Les quatre projets présentés dans ce communiqué de presse ont pour but de partager le savoir-faire et les

technologies japonaises avec le peuple tunisien et de travailler ensemble pour aider les pays d'Afrique, notamment en Afrique subsaharienne.

**L'AFRECO a été créée en 1969 par l'ancien Premier ministre Nobusuke KISHI et d'autres personnes. Elle vise à promouvoir des échanges économiques et culturels plus étroits entre le Japon et les pays africains et, dans le même temps, à contribuer à l'amitié et à la prospérité mutuelle entre le Japon et les pays africains. Elle suit également de près la croissance et les changements dans les pays africains et s'efforce de contribuer au renforcement des relations entre les pays africains et le Japon.*

Kapitalis : Tunisie-Japon : GCUBE & Unimed signent un contrat pour la création d'une entreprise de recherche et de développement médical

Un contrat entre la société japonaise GCUBE et la société tunisienne Unimed a été signé, ce vendredi 26 août 2022, pour la la création d'une entreprise joint-venture (NIPPOMED) de Recherche et de développement médical, dans le cadre du partenariat triangulaire Japon-Tunisie-Afrique., afin de fabriquer et vendre des kits de test antigène/anticorps pour le Covid-19 puis pour d'autres maladies populaires.

La signature de ce contrat a eu lieu lors d'une d'une conférence de presse organisée par l'Association japonaise pour le Développement Économique de l'Afrique (AFRECO), à l'occasion de la Conférence Internationale de Tokyo sur le Développement de l'Afrique (Ticad 8) qui se tiendra les 27 et 28 août à Tunis.



L'AFRECO a, par ailleurs, présenté 4 projets dans le domaine médical, annonce encore l'ambassade du Japon en Tunisie.

L'Économiste Maghrébin : Création d'une entreprise médicale NIPPOMED

L'Ambassadeur de Japon a assisté aujourd'hui à la conférence de presse organisée par l'Association japonaise pour le Développement Economique de l'Afrique (AFRECO). Et ce, à l'occasion de la TICAD 8.

Selon un communiqué, lors de cette conférence, AFRECO a présenté 4 projets dans le domaine médical.

A cette occasion, GCUBE (société japonaise) et **UNIMED** (société tunisienne) ont signé un contrat. Et ce, pour la la création d'une entreprise joint-venture (NIPPOMED) de Recherche et de Développement médical, dans le cadre du partenariat triangulaire **Japon**-Tunisie-Afrique. Afin de fabriquer et vendre des kits de test antigène/anticorps pour le Covid-19. Puis, pour d'autres maladies populaires.

Tunisie Numérique : Le Japon concrétise des projets en Tunisie dans l'industrie pharmaceutique et cosmétique

L'Ambassadeur du Japon Shinsuke Shimizu, a assisté aujourd'hui vendredi 26 août 2022 à la conférence de presse organisée, à l'occasion de la TICAD 8, par l'Association japonaise pour le Développement Economique de l'Afrique (AFRECO).

Selon l'ambassade, lors de cette conférence, AFRECO a présenté 4 projets dans le domaine médical. A cette occasion, un contrat entre GCUBE (société japonaise) et une société privée tunisienne a été signé pour la création d'une entreprise joint-venture de recherche et de développement médical, dans le cadre du partenariat triangulaire Japon-Tunisie-Afrique, afin de fabriquer et vendre des kits de test antigène/anticorps pour le Covid-19 puis pour d'autres maladies répandues.

Aussi, avant-hier mercredi et à l'occasion de la TICAD 8, l'Ambassadeur Shimizu a assisté à la cérémonie d'inauguration de la première usine de produits cosmétiques à base de plantes naturelles, à El Fejja, au gouvernorat de Manouba, de la société « Saraya Natural Products Tunisia (SNPT) », filiale de la grande entreprise japonaise « SARAYA ».

A cette occasion, Sayara a décidé d'octroyer un don de savons liquides à 8 écoles primaires à Kairouan soulignant l'importance du lavage des mains comme mesure contre le covid-19. L'Ambassade du Japon en Tunisie pour sa part a décidé de financer à travers un autre don un projet de fourniture de blocs sanitaires à ces 8 écoles, souligne-t-on.

On assure que bientôt une deuxième usine sera complètement construite pour le conditionnement et la mise en bouteille de l'huile d'olive. Les produits des deux usines (coût d'environ 19 millions de dinars) seront destinés à l'export au Japon, en Europe et en Afrique.

Notons que le président de l'Union Tunisienne de l'industrie, du commerce et de l'artisanat (UTICA) Samir Majoul s'est entretenu mercredi, avec le président de l'Organisation japonaise pour le développement en Afrique (AFRECO), Tetsuro Yano.

Il a, à cette occasion, mis l'accent sur l'importance de tirer profit de cet important rendez-vous pour favoriser le rapprochement entre les représentants du secteur privé des deux pays, assure-t-on dans une communication au site officiel de la TICAD 8.

Le président de l'Union, a également mis l'accent sur l'importance de soutenir les efforts africains en matière de lutte contre les répercussions de la pandémie Coronavirus et de la guerre russo-ukrainienne notamment en matière de sécurité alimentaire.

Le responsable japonais a de son côté, affirmé l'intérêt qu'accorde son association à la Tunisie et les avantages qu'elle offre dans plusieurs secteurs notant, que des projets tunisiens sont en cours d'étude par l'organisation tout en mettant en lumière les efforts consentis par son association dans le développement de l'Afrique précisant qu'elle œuvre à établir des rapports fructueux entre les investisseurs Japonais et africains.

Pour rappel, 82 projets seront présentés, lors de la TICAD 8, d'une valeur de 2.7 milliards de dinars et ce, d'après la Chambre de commerce tuniso-japonaise. Ces projets concerneront les secteurs de la Santé, l'industrie automobile et les énergies renouvelables.

Webmanagercenter :Signature de 4 accords entre la Tunisie et le Japon dans le secteur de la santé.

Le président de l'Association japonaise pour le développement économique de l'Afrique (AFRICO), Tetsuro yano, a annoncé, vendredi 26 août 2022 à Tunis, la signature de plusieurs accords entre la Tunisie et le Japon pour la réalisation de 4 projets dans le secteur de la santé.



Lors d'une conférence sur " le développement de projets dans le secteur médical et de la santé en Afrique " organisée en marge de la conférence internationale de Tokyo sur le développement de l'Afrique (TICAD8), Yano a ajouté que ces projets concernent le transfert de la technologie japonaise moderne dans le secteur médical et de santé en Tunisie.

Le ministre de la Santé, Ali Mrabet, a précisé, pour sa part, que le premier projet s'inscrit dans le cadre d'un accord de partenariat entre la société tunisienne Unimed et l'entreprise tunisienne Gcube et consiste en le transfert de la technologie japonaise de fabrication des tests rapides de dépistage de Covid-19 en Tunisie et l'exportation de ces tests vers les pays africains.

Le deuxième projet porte sur la construction d'un centre de formation en Tunisie pour la formation des cadres médicaux et paramédicaux, tunisiens et africains, en matière d'exploitation des technologies adoptées par une entreprise japonaise pour le développement de traitement des maladies cardiaques.

Le troisième projet financé par le Japon, consiste à mettre en place un service de laboratoires regroupant toutes spécialités d'analyses médicales à l'hôpital Charles Nicolle de Tunis.

Le quatrième projet consiste à mobiliser un groupe d'experts japonais dans le domaine de la santé pour la formation des cadres médicaux dans la manipulation de plusieurs nouvelles technologies de santé.

Mrabet a affirmé que ces projets seront suivis par une autre série de projets entre les deux pays dans le domaine de la santé.

Africanmanager : Signature de 3 accords dans le domaine de la santé avec des investisseurs japonais

Le président de la Chambre Tuniso-Japonaise de Commerce et d'Industrie (CTJCI), Hédi Ben Abbes, a déclaré, ce jeudi 25 août 2022, que les manifestations parallèles organisées en marge des travaux de la TICAD 8, démarreront demain, vendredi 26 août 2022, rappelant que l'organisation Africo annoncera la signature de trois conventions entre la Tunisie et le Japon. Ce qui représente un grand exploit et une première dans l'histoire du secteur privé en Tunisie et Afrique.

Il a ajouté, sur Express fm, que 225 projets tunisiens ont été soumis à la chambre dont la plupart ont été lancés par des jeunes et des startups qui n'ont pas assez de moyens techniques et financiers.

Il a souligné, dans ce cadre, que la CTJCI a permis auxdits promoteurs de présenter leurs projets aux investisseurs japonais, rappelant que ces projets sont principalement en rapport avec les secteurs de la santé, de l'intelligence artificielle, de la numérisation, de l'industrie 4.0, de l'économie bleue et verte.

Selon ses dires, l'investisseur japonais est prêt à financer les projets tunisiens prometteurs relevant du secteur privé et disposant d'un fort potentiel lui permettant d'accéder au marché africain, et ce, dans des secteurs en rapport avec la numérisation, les nouvelles technologies, l'industrie pharmaceutique etc.

"250 entreprises japonaises ont présenté des demandes pour participer à la TICAD. Cette forte demande a poussé la CTJCI à sélectionner certaines entreprises et à rejeter d'autres", a-t-il révélé.

Les 81 projets sélectionnés par la Chambre peuvent créer 35 mille emplois en Tunisie, selon Hédi Ben Abbes, ajoutant qu'il est important de préparer le terrain devant les promoteurs desdits projets pour qu'ils puissent obtenir des financements et nouer des partenariats avec les investisseurs japonais et africains.

Espacemanager : Présentation du contrat de partenariat entre UNIMED et la société japonaise GCUBE

En marge de la TICAD 8, l'Association japonaise pour le développement économique de l'Afrique (AFRECO) a présenté lors d'une conférence de presse tenue ce vendredi 26 AOÛT 4 projets dans le domaine médical. Parmi ces projets figure le contrat de partenariat conclu, le 22 juin 2022, entre les laboratoires pharmaceutiques UNIMED et la société japonaise GCUBE pour la création d'une entreprise joint-venture (NIPPOMED) de recherche et de développement médical, et ce dans le cadre du partenariat triangulaire Japon-Tunisie-Afrique.

Cette entreprise sera spécialisée dans la fabrication et la vente des kits de test antigène/anticorps pour le Covid-19 puis pour d'autres maladies populaires. La conférence de presse a été marquée par la participation de l'ambassadeur du Japon en Tunisie Shinsuke SHIMIZU. Lors d'une conférence de presse tenue ce vendredi 26 août

LeTemps : Coopération tuniso-japonaise fond de TICAD : belles perspectives pour l'industrie pharmaceutique

L'industrie pharmaceutique est, décidément, l'un des secteurs les plus entrepreneurs et qui se montrent actifs et d'autant initiateurs pour profiter des perspectives et opportunités de coopération tuniso-japonaise sur fond de la tenue prochaine de la TICAD 8 qu'abrite incessamment la Tunisie.

Ainsi, et sur fond de préparatifs de la TICAD 8 (Conférence internationale de Tokyo sur le développement de l'Afrique) qui se tiendra les 27 et 28 août à Tunis, un accord de partenariat tuniso-japonais dans le domaine de l'industrie pharmaceutique a été signé ce mardi 14 juin 2022 au siège du laboratoire pharmaceutique UNIMED situé à Kalaâ Kebira dans le gouvernorat de Sousse.

Ce partenariat tuniso-japonais vise, en premier lieu, à construire un système industriel compétitif et durable dans le domaine de la santé en Tunisie, basé sur le transfert de technologies entre le Japon et la Tunisie, et le renforcement des capacités des ressources humaines tunisiennes, en vue de répondre aux besoins du marché mondial.

Un second projet de partenariat entre le laboratoire pharmaceutique tunisien UNIMED – ESPITA et la société japonaise GCUBE a été annoncé pour créer une pépinière d'entreprises (startups) de recherche et de développement médical dans le but de renforcer les capacités de la technologie IVD (In Vitro Diagnostic) pour diverses épidémies à partir du Covid-19 et de fabrication d'autres dispositifs médicaux.

Une cérémonie a été organisée, à cette occasion, pour la signature du partenariat tuniso-japonais, doublé de la signature d'une « déclaration d'intention » pour lancer le projet commun entre UNIMED et GCUBE pour fabriquer et promouvoir un détecteur biologique pour le diagnostic rapide du COVID-19 et un autre pour le diagnostic rapide des anticorps contre le virus, et ce, pour la première fois en Tunisie, tient-on à souligner.

La cérémonie a été présidée par Ridha Charfeddine, directeur général d'Unimed, en présence de Shinzuke Shimizu, ambassadeur du Japon en Tunisie, Yanote Tsuru, président de l'association japonaise pour le développement économique de l'Afrique (AFRECO), et de Kenjini Shimura, directeur général de la société japonaise GCUBE, mais aussi de Chiheb Ben Rayhana, directeur général du

Laboratoire national de contrôle des médicaments, Hédi Ben Abbas, président de la Chambre de commerce et d'industrie tuniso-japonaise, et de Slaheddine Hallara, PDG du Groupe IHE.

Au programme de la cérémonie, des allocutions et des échanges d'amabilités entre les différents intervenants, suivis de la signature des deux accords de partenariat. Dans une déclaration aux médias, Ridha charfeddine a souligné que ce partenariat est une affirmation de la reconnaissance des compétences tunisiennes par les opérateurs scientifiques et économiques japonais, indiquant que le Kit du Diagnostic Rapide « made in Tunisia », fabriqué à UNIMED sera exposé lors la TICAD 8. « La réussite de ce partenariat ouvrira la voie à d'autres opportunités de coopération tuniso-japonaise dans des domaines innovants de l'industrie pharmaceutique », a-t-il conclu.

Ilboursa : UNIMED : Signature d'un contrat avec une Sté Japonaise pour la création dans l'industrie pharmaceutique et cosmétique

Un contrat entre GCUBE (société japonaise) et UNIMED (société tunisienne) a été signé pour la création d'une entreprise joint-venture (NIPPOMED) de Recherche et de Développement médical, dans le cadre du partenariat triangulaire Japon-Tunisie-Afrique

اليابان تختار " أونيماد " المخبر الصيدلاني الإفريقي الوحيد للتصنيع Mosaique fm :



" مخابر بمقر يابانية تونسية شراكة اتفاقية توقيع حفل 2022 جوان 14 الثلاثاء اليوم أقيم بسوسة ولاية من الكبرى القلعة بمدينة الأدوية لصنع " أونيماد " " أونيماد " لشركة العام المدير الدين شرف رضا السيد ضيوف جدا المهمّ الحدث هذا وحضر وهم :

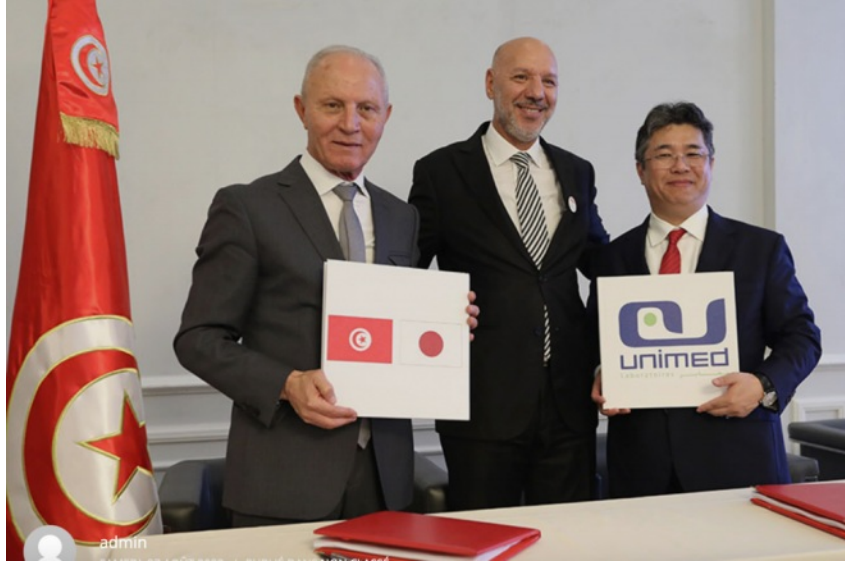
Shinsuke SHIMIZU " السيد بتونس اليابان سفير سعادة -
لإفريقيا الاقتصادية للتنمية اليابانية الجمعية رئيس " YANOTE TSURO " السيد-
الأدوية لمراقبة الوطني المخبر مدير عام ،ريانة بن شهاب البروفسور- (AFRECO)
" GCUBE " اليابانية للشركة العام المدير " KENJINI SHIMURA " السيد -
اليابانية التونسية والصناعة التجارة غرفة رئيس عباس بن الهادي السيد -
" IHE " لمجموعة العام المدير الرئيس هلارة الدين صلاح السيد -
الأخرى الشخصيات من العديد حضور أيضا الاحتفالية هذه شهدت الضيوف هؤلاء جانب وإلى
والصناعية الأكاديمية المجالات في المتخصصة

الأدوية صناعة في خبرتها أهمها لعلّ موضوعية معايير على بناء " أونيماد " مخابر اختيار تم وقد الشفافة وإدارتها الدولية ومكانتها العالية جودتها ومستوى نقل على يقوم الصحة مجال في ومستدام تنافسي صناعي نظام بناء إلى الشراكة هذه وتهدف العالمية للسوق والمستقبلية الحالية الاحتياجات لتلبية الوطنية القدرات وتعزيز التكنولوجيا " UNIMED- ESPITA " بين للشراكة ثانٍ مشروع عن أيضا الإعلان تم الحفل نفس وفي الطبي والتطوير للبحث (ناشئة مؤسسات) مؤسسات حاضنة لإنشاء GCUBE و من بداية الأوبئة لمختلف IVD(In Vitro Diagnostic) تكنولوجيا في القدرات تعزيز بهدف الأخرى الطبية الأجهزة وتصنيع 19 - كوفيد البحث نتائج لتعزيز الجامعية بيئتها على " أونيماد " مؤسسة انفتاح الناشئة الشركة هذه وتجسد وتتمينها

على تأكيد الواقع في هي الشراكة هذه أن الترحيبية كلمته في الدين شرف رضا السيد وأوضح العلمي المجالين في اليابانيين الفاعلين قبل من التونسية والخبرات بالمهارات الاعتراف والاقتصادي.

"مخابر في المنجزة "تونس في صنع" السريع التشخيص أدوات مجموعة عرض وسيتم التي الثامنة نسخته في (Ticad 8) الإفريقية للتنمية الدولي طوكيو مؤتمر فعاليات خلال "أونيماد 2022. أوت 28 و 27 يومي تونس في ستعقد من العديد في الياباني التونسي للتعاون أخرى فرصا سيفتح الشراكة هذه نجاح أن شكّ ولا والمتطورة المبتكرة المجالات

اليابانية تعلنان تركيز مصنع GCUBE التونسية و Unimed شركة
Fedsante : تونسي ياباني لصناعة اختبارات الامراض الفيروسية والجراثومية



اختبارات لصناعة ياباني تونسي مصنع تركيز تعلنان اليابانية GCUBE و التونسية Unimed شركة
(صور) والجراثومية الفيروسية الامراض

بحضور التونسي الصحة وزير مرابط علي السيد اليوم اشرف بتونس 8 التيكاد قمة انعقاد بمناسبة
المختصة التونسية Unimed شركة بين اتفاقية توقيع على يابانية تونسية واقتصادية طبية شخصيات
الامراض اختبارات لتصنيع ياباني تونسي مصنع لانشاء GCUBE وشركة الادوية تصدير صناعة في
NIPPOMED. باسم جديد منتج والجراثومية الفيروسية

وسيستخدم افريقيا في نوعه من الاول وسيكون سوسة جهة في تركيزه اشغال انطلقت الجديد المصنع
وهي تونس الي التصنيع تجهيزات وصلت وقد ،سيمتلها العالم في رابع تونس ستكون متطورة تكنولوجيا
. التراخيص استكمال طور في

تونس جعل ان الي يهدف النموذجي المشروع هذا ان Unimed مجمع عام مدير الدين شرف رضا وقال
الخبرات نقل من سيمكن انه الي بالإضافة الافريقية القارة في الجديد المنتج وتصدير لتصنيع مركز
.التونسية الكفاءات الي اليابان من المنتجات هذه تصنيع

جدية اكدت معمقة بدراسات قام بعد الشراكة لهذه تونس اختار الياباني الجانب ان الدين شرف وبين
الي التصدير في ونجاحها عالمية بمواصفات الادوية صناعة مجال في الواسعة وخبرتها Unimed شركة
العالم حول البلدان عديد

الياباني الجانب أن مضيئا ،القادم سبتمبر شهر أواخر مع كليا جاهزا سيكون المصنع أن الدين شرف وبين
يعرف ما آلاف 5 على الحصول وتمّ المصنع هذا على ستشرف التي التونسية الكوادر لتدريب وفدا أرسل
الصحة وزارة منحهم كما ،Unimed مصانع في تعبئتهم وتمت ،19-لكوفيد السريعة للتحليل kit ب
التونسية الصحة وزارة قبل من المنتج لهذا الجيدة المواصفات اعتماد شهادة أمس

Tustex : Un accord de partenariat technique conclus avec le japonais GCUBE

La société « UNIMED » a signé un accord de partenariat technique avec un industriel japonais « GCUBE » et l'université privée « ESPITA » pour assoir un système industriel compétitif et durable basé sur le transfert de technologie et le renforcement des capacités Tunisiennes à répondre à un besoin actuel et futur du marché. L'accord en question se limite à un transfert de compétences techniques.

Deux autres déclarations d'intentions ont été conclues.

La première entre UNIMED- ESPITA et GCUBE pour créer une pépinière d'entreprises (startup) de Recherche et de Développement afin de renforcer les capacités de la technologie IVD (In Vitro Diagnostic). La deuxième entre UNIMED et GCUBE pour créer une JointVenture dans le but de fabriquer des Kits de Diagnostic Rapide appliqués aux domaines de santé, de l'environnement et des aliments.

Le Kit de Diagnostic Rapide « Made in Tunisia » à fabriquer à Unimed sera exposé lors des assises de la Conférence internationale de Tokyo sur le développement de l'Afrique (Ticad 8) dans sa huitième édition qui aura lieu à Tunis les 27/28 Aout 2022.

La réussite de ce partenariat va ouvrir d'autres opportunités de coopération Tuniso-Japonaise dans des domaines de pointe et innovants.

بن عباس: AFRECO تدعم جعل تونس منصّة استثمار ياباني بشمال إفريقيا

Mosaïque Fm :



لموزاييك تصريح في ،عباس بن الهادي اليابانية التونسية والصناعة التجارة غرفة رئيس أكد (AFRECO) والتنمية للاقتصاد الأفريقية الرابطة منظمة رئيس أنّ ،2022 أوت 26 الجمعة شمال في الياباني للاستثمار منصّة وجعلها تونس لدعم التامّ دعمه اليوم صبيحة محادثة له أكد والصحراء الساحل وإفريقيا إفريقيا

،اقتصادية قطاعات عدّة في أفريقيا في بالاستثمار معنيّة المؤسّسة هذه أنّ عباس بن الهادي وبيّن 4 على اتّفاقيات أربع أولّ إمضاء مؤتمر هامش على تصريحه حسب ،جدا مهم المنطقة في ودورها والصناعة التجارة غرفة سنة من أكثر منذ عملت مشاريع وهي ياباني بتمويل تونسية صحية مشاريع لها التحضير على والاقتصاد الصحة وزارتي مع بالتعاون التونسية اليابانية المشتركة

Radio.tn : Ben Abbas : l'AFRECO soutient faire de la Tunisie une plateforme pour les investissements japonais en Afrique du Nord

Le président de la Chambre de commerce et d'industrie tuniso-japonaise Hedi Ben Abbas a confirmé, dans une déclaration à Mosaïque vendredi 26 août 2022, que le président de l'Association africaine pour le développement économique et le développement (AFRECO), l'a assuré de la conversation de ce matin de son plein soutien pour soutenir la Tunisie et en faire une plate-forme pour les investissements japonais en Afrique du Nord et dans le Sahel et le Sahara africains.

Hedi Ben Abbas a indiqué que cette institution est intéressée à investir en Afrique dans plusieurs secteurs économiques, et son rôle dans la région est très important, selon sa déclaration en marge de la signature des quatre premiers accords sur 4 projets de santé tunisiens avec des japonais. financement, des projets mis en œuvre depuis plus d'un an par la Chambre mixte japonaise de commerce et d'industrie. tunisien, en coopération avec les ministères de la santé et de l'économie, pour s'y préparer.

Video : Récap Conférence de Presse

Link : <https://www.facebook.com/watch/?v=766049687943799>

TZ parades 3.11tri/- worth of projects at TICAD8

30-08-2022 | 15:23



TZ parades 3.11tri/- worth of projects at TICAD8

Africa-Press – Tanzania. TANZANIA has paraded eight projects worth 1.334 billion US dollars (about 3.11tri/-) at the Eighth Tokyo International Conference on African Development (TICAD8), as among the country’s flagship development projects.

The projects, which are in various stages of implementation, include the rehabilitation of Morogoro-Dodoma Road, the irrigation project in the Tanzania part of the Lake Victoria Basin, the Lugoda (Mufindi) water supply project, as well as building the capacity of the fish farming research centre in Dar es Salaam

Other projects are a modern fishing port, establishment of a quality assurance laboratory in the fishing sector and the renovation of the Wete fishing port and the construction of the Somanga-Fungu-Mkuranga power line.

Speaking during the TICAD8 meeting held yesterday in Tunis, Tunisia, Prime Minister Kassim Majaliwa, who is representing President Samia Suluhu Hassan, had the opportunity to explain to the participants about the execution of several projects both in the Mainland and Zanzibar.

“Through the TICAD meetings, we as a country have benefited immensely. We secured funding for the construction of the Mfugale Bridge, the Kinyerezi II power plant project, and now we have requested them to extend funding for the completion of three projects –Arusha-Holili road, Kigoma Port and the Zanzibar water project,” the Prime Minister said.

He said the three projects will cost 343.8 million US dollars, out of which, a sum of 221 US dollars is for the Arusha-Holili road project, 98.7 million US dollars for improvement of Zanzibar’s water supply infrastructure projects and 24.1 million US dollars for Kigoma Port.

Regarding the agricultural sector, Premier Majaliwa said Tanzania has appealed to be given priority by TICAD8, so that it can increase the scope of agriculture.

“We need to make sure we have food security and a surplus for export,” the PM added.

Premier Majaliwa also held meetings with leaders of Japan Tobacco Incorporation (JTI), Mitsubishi and the President of the Japan International Development Agency (JICA).

He thanked JUT Board Chairman Mr Mutsuo Iwai for the company's decision to set up a girls hostel in Urambo District, Tabora region, calling them to buy more tobacco from farmers in the region.

"Last year they bought 14 million tonnes of tobacco, so we have asked them this season to add more tonnes so as to provide a reliable market to farmers' produce. They have a factory so they can buy more," he said.

Moreover, the Prime Minister thanked the Vice-President of Mitsubishi Mr Yasuteru Hirai, for supporting completing the construction of electricity infrastructure in the Kilimanjaro Region and asked them to invest in the agricultural sector, especially in the production of fertiliser.

For his side, the President of JICA, Dr Akihiko Tanaka promised the Prime Minister that the volunteers, who left the country because of Covid 19, will start returning soon to continue providing services to the people.

Meanwhile, the Association of African Economy and Development (AFRECO) has expressed its intention to build a school of medical engineering in collaboration with the University of Dodoma (UDOM), to address the shortage of medical professionals and medical equipment in the country.

This was said by the president of the company, Mr Tetsuro Yano over the weekend, when he met Prime Minister Kassim Majaliwa.

Mr Yano said that when they visited Tanzania, they realised that there was a need for medical equipment and experts, hence the decision to establish the school.

"We have seen the need to establish a medical engineering college so that we can train professionals who will be responsible for equipment maintenance instead of importing technicians from outside the country or leaving the defective equipment unused," he said.

He told the Prime Minister that they had already received a request from UDOM to provide a mobile clinic bus with special medical equipment, which will be helping to provide services to the university community and neighbouring villages.

For his part, an expert from Japan's Kurashiki University of Science and Art, Dr Tomotaka Naramura told the Premier that they intend to open the college in 2023.

He said they met with the Vice-chancellor of the UDOM and agreed that there is a need to develop human resources on the medical side, so that the country can have specialists for the purchased medical equipment.

For More News And Analysis About [Tanzania](#) Follow [Africa-Press](#)